

1. 普通鋼鋼材の在庫状況見通し（全国市中数量調査の自社所有分による）

*上段は前期比在庫増減、中段〔 〕は在庫水準、下段（ ）は在庫水準前期比（%）（自社所有分に限る）
点線内は全鉄連による予想数字（ ）内は誤差率=予想値÷実績

令和3年8月末	令和3年11月末	令和4年2月見通し	令和4年5月見通し
+25千トン 〔 1998千トン 〕 (101.3%)	+96千トン 〔 2094千トン 〕 (104.8%)	+77千トン 〔 2171千トン 〕 (103.7%)	-85千トン 〔 2086千トン 〕 (96.1%)
1956千トン(97.9)	2044千トン(97.6)	*	*

2. 前述の在庫増減がそれぞれ市況に及ぼした影響

令和3年9月末	令和3年12月末	令和4年3月見通し	令和4年6月見通し
鉄筋、H形鋼、C形鋼の平均市況は115,400円。前期比+12,700円。大型物件は見受けられたものの中小建築案件は思ったほど出なかった。加工は小口中心だが増加。流通が慎重な仕入をしていることから在庫は増えなかった。メーカー値上げの転嫁を徐々に進めたが、採算まで届かず。コラムと軽量C形鋼だけは極端にタイトな状況であった。	鉄筋、H形鋼、C形鋼の平均市況は123,400円。前期比+8,000円。秋需が伸び悩んだ需要期となった。建築について大型物件は順調ながら、中小物件は変わらず低調。12月に入り落ち込んだ。流通は需要見合いの仕入をした在庫の過剰感はなかった。スクラップ価格は弱含みだが高炉、電炉ともメーカーは強気姿勢を崩していない。製造業関連では建産機は好調、自動車の減産から薄板在庫は増加。	大型物件について物流倉庫、データセンター等が好調。中小案件は1～2月不需要期で低調に推移し、3月以降に出始めてくると予想していたがロシア・ウクライナ情勢の影響などで先行き不透明となり延期や中止が出ているようだ。流通各社、仕入を抑えているため在庫に過剰感はない。3月頃より土木関連の引合いが増え、歯抜けサイズも散見されている。建産機は堅調なものの自動車、トラックは半導体不足の影響もあり、生産調整が続き低調。	大手ファブでは山積み確保されており、大型物件はこのまま堅調に推移すると思われる。中堅以下のファブでは山積みが続いているため中小物件の回復は不透明。スクラップ価格が上昇していることからメーカーの雰囲気が一変し、価格について強気姿勢となっている。鋼板類に関しては現状メーカーからの引取り要請が厳しく苦労しているが、新年度以降、徐々に在庫は減少傾向と予想される。

3. 在庫積み増し、あるいは削減の意欲または方針

1月の仕入量は145,645トン前月比-9.3%、前年同月比-3.8%、販売量は131,947トン前月比-9.8%、前年同月比-8.6%。仕入量・販売量ともに前月比減少、前年同月比でも減少となりました。在庫量は242,772トン前月比+6.0%、前年同月比+8.9%、在庫量は前月比、前年同月比ともに増加しました。在庫率は184.0ポイントと大きく上昇しました。

1月の販売は不需要期の季節的要因もあり、どの品種も動きが悪く、特に建築は中小物件が少なく、あっても価格の厳しい状況が続いています。荷動きの悪さから在庫は増加しました。

4. 大阪の動向

1月、2月は稼働日数が少なく、荷動きは低調であった。1月比では2月の出荷は増加となったが、予想より悪かったことから在庫は増加した。3月は稼働日数が増える事、また先高感から一部の商品に仮需が発生し、出荷は増える予想も、入庫も期末でメーカーの出荷が増える事が予想され在庫は横這いもしくは増加が予想される。4～6月の需要見通しについては、建産機は好調を維持しており、また建築関係も大型案件は順調も、中小案件は相変わらず低調で遅れ気味。4月頃から仕事が出てくるとの話であり、中小案件の出かた次第で、流通の需要感が変わりそう。予想通りになる事に期待したい。